

每月一回十五日發行
定價 一ヶ月金十錢郵稅共
本紙 (特別欄一行金壹圓
廣告料 (普通欄全金五十錢)
發行兼編輯 吉田五平
印刷人
福島縣平市南町七一
發行所 磐城公友社

吉田五平

上遠野村より

田人村まで

(11)

で

ひから流るる汗は目から頬に傳はつてくる、二人は顔を見合せて仕方なしに笑つた、艱難苦行は茲に有るのだと言へば〇〇君も宜べと答へた

(11)

途中上瀧にある双田炭礦の一部を見學しやうと所前に立寄つた處生憎く所長は上

に乗れば路は更に西の山奥へと行くのである。

樹木鬱蒼の間を縫ふて緑蔭深き處、谷川のせせらぎの音は、喧びしき蟬聲と相和して時ならぬ音楽を奏でてゐる。

(三)

田村役場の入口で自動車

無腸に其
 窮すれば通ず、
 日本人は幸福す
 歐洲大戰の時英國の如きは物資と常備軍が缺乏しりわけ食糧の缺乏は非常にひどかつた牛肉が無くなつ

好の機會
 ムダはまだ多く多い
 ざる
 川 路 柳 虹
 のと思はれる。
 鷗すれば通ずるとか……歐
 洲大戰は毛唐に魚を喰ふ事
 を教へた、斯うした深刻な

日本水主
社長
技師長
小名濱消防組
松本
常磐線植田驛
土木建築
請負業
成

成瀨組
 瀨組
 巴組
 三組

京中とのことで不在であつた。全所を辭して鮫川の沿岸に出た、鮫川の清流は亦格別である、川風は吾等の全身を颯つて涼味萬斛殆んと別天地の様な氣がして、言はゆる「暑さ其處のけ」の勢ひである、兩岸の佳景風光明媚にしてその態の妙絶たる實に筆舌に盡し難いものがある、二人は思はず快

を降りた。
自然と勾配登りな田人村の山坂から振りさげ見れば、今吾等が來た沿道筋の村落は、遙かに眼下である事を覺えた、役場を訪へば小澤村長さんは、湯本の町葬に參列して不在なので、逸見助役に面接して此處を引揚げ又々十丁余もある坂道を自動車で其終點の部落まで

たので仕方なく魚肉を喰やうになつた、それまでは彼等は魚肉などは肥料にするより外使ひ途がないと思つてゐたのである、英國に今尙残つてゐる魚屋はその店の恰好は日本の様なあのバン台を斜めに於て魚を並べてゐるあの形ちとソツクである處を見ると當時ロ本^{ロンドン}の魚屋の様式を真似たもの

食糧難から見れば未だまだ日本は強味があると思ふし、かし時局がこの様に逼迫し、恐て來れば、當然英國の魚肉のやうに、
のタを省いた新しい生き方が、
の發見されて來るのではない、
此が、扱て日常生活の節約、
言ふ問題になつて、我々の
殊に目につくのは日本人が、
余りに紙を粗末にする事でも

綴驛前
合資社
不動產
土木請負業
湯本町
平
院長 醫學博士
平市十

電話綴十六番
炭礦運輸部
邊長作
電話四〇番
病院
鈴木定藏
五丁目
電話六四一番

簡易生活の心構へ

無駄は斯く省け

今は絶好の機会

窮すれば通ず、ムダはまだ多く多い
日本人は幸福すぎる

川
路
柳
虹

ある、デパートなどで使ふがあるんだからこれをもつ
あの必要以上な包紙の濫發と活用すればよからう、デ
は、バルブ飢饉が喧しい折デパートだけで包紙を全廢し
柄も大に考へられてよいとても國家的にも大きな利益
思ふ、外國等では、よほどであると思ふ、次に電氣の
大きな買物をしなければ品節約も考へていい、各家庭
物を包むで呉れない、みんなでメートルのある所は兎に
なムキ出した、パンを買つ角、無い所では夜中カンカ
てもムキ出しであの長い食ンつけてゐるのを見るが、
パンをその儘肩にかついであればどうかと思ふ
街を歩いてゐるお嬢さんを日本は水力電氣に依り電力
よく見かける、日本では十が豊富であるとは云へ、あ
錢の品を買つても丁寧に包あしたムダを工場方面へ廻
んで呉れるが、あれは右かして行つたら、どんなに能
ら左へ屑箱へ丁ふのだから率が上がるかも知れない、
全くムダ中のムダと云はなそれに伴つて水道の消費等
ければならない、日本にはも一般が無關心すぎると思
風呂敷包と云ふ便利なものふ

(未完)

小名濱漁業組合長

水野政次郎

日本水素工業株式會社

社長	中野有禮
技師長	杉原精

松本徳次郎

土木建築
請負業
成瀨組

會合
社資
不動
澤炭
礦運
輸部

湯本町 土木請負業
渡邊 長作

平
病
院

院長 醫學博士 鈴木定藏
平市十五丁目 電話六四一

十五錢辨當は

銚後セン辨當を意味して面白い

愈々各驛にお目見得

國鐵では時局に即して銚後辨當の發賣を計畫してゐたがいよいよ去る大震災の記念日一日を期して全國一齊に實行する事と決定した

此の辨當は銚後の緊張を表現するにふさわしい簡易なもの、お茶も從來の様にゴタ／＼したものを廢し榮

養本位として定價は半額の十五錢だ即ち時局下の旅客をして皇軍兵士の勞苦を偲

ばせ併せて勤儉節約の國策の徹底を期さうとするもの

既にトップを切つて去る八月廿八日から賣出した廣島鐵道局管内の評判が頗る好

く良成績なのでいよいよ全國の驛で賣らせる事にした譯である

もつとも用意のない局管内は多少おくれる模様だが、

銘酒 「鶴仙」 釀造元

松吉屋酒店

平市平窪

之により辨當は上辨三十錢銚後辨當十五錢の二種となり二十錢であつた從來の並辨は廢止されるものであると云ふ

小澤松太郎

助役

逸見光治

外吏員一同

石住村會議員

溝井正二

平子金太郎

小澤松太郎

小澤勝治郎

鈴木清

鈴木清次郎

佐藤傳之助

大竹庄三郎

小澤源之助

平子幸太

佐藤彌一

大竹甲

貝泊村會議員

角田周吉

蛭田善輔

蛭田喜一

横田春吉

蛭田務

佐藤兼次

蛭田龜之助

芳賀萬吉

蛭田千代之助

佐藤重一郎

蛭田竹太郎

芳賀金之丞

内外有名藥品 寫真機並ニ材料 度量衡計量器 各種花卉類種子

西村屋藥舖

平市二丁目 電話二三番

荷路夫村會議員

綠川秀雄

熊田作太郎

鈴木星山

蛭田利喜藏

綠川進

綠川信義

蛭田常太郎

芳賀多茂

綠川清次

鈴木光

齋藤寅治

綠川繁治

和洋紙 學校用品 疊表 砂糖雜貨

大屋

平市二丁目 電話一三番

庶民金融 親切本位

多田井質店

平市大工町 電話五九一

金物銅鐵一切

磐城セメント 特約代理店

三井生命 代理店

釜屋商店

電話九番九九番 振替口座一〇九五六番

日立式モートル

福島縣下特約店

釜屋商店電機部

專用電話六三一番 振替口座一〇九五六番

荒物、雜貨、卸小賣

列伊勢屋

阿部唯次郎 平市四丁目 電話四五番

平市四丁目

御料理 新つる家

電話七四六番

銘酒芳醇舌鼓

清世界

日頃の辛苦もしつぱり忘れ

飲んだ心は清世界 (香葉)

發賣元

清水屋本店

石城郡小名濱町 電話六番

食料品販賣部開設

石城郡江名町

渡邊醫院

渡邊麟太郎

木村外科醫院

平市六丁目(橋隣) 電話三〇九番

中野醫院

院長 中野恵次郎 電話五〇九番

松村醫院

平市南町 電話一〇七番

丹野齒科醫院

平市田町 電話三八五番

市原醫院

平市田町 電話一四番